

boo

思考のミルフィーユ、パイル、パイル、パイル、ぱ（にっしゅ）、要る？色々あったけど今日も生きてた。明治通りをぶつぶつ下向いて歩いてた訳です。何故だか股間がキンキンと痛む気がして、病院に寄りました。そしたら「去勢せよ」ですって。世の中の不条理を垣間見た気がして、あら怖い。その場を立ち去りましたとき。

山を越えろと言われても、山らしい山が見当たらないのはここが都会だからですか？いえ、山なんて元々存在しなかったのです。2000年問題が引き起こした氷河期によって、この時代に生きていた山は絶滅してしまっただけです。山がまだ存在した頃は人類にとって大きな脅威だったといえます。「今夜が山だ」山が近くに居るから備えるべきだという箴言が発祥であり、かつて大人気を博したプロ冷凍マグロ投げ選手、ジャイアント茶葉は山とのクオーターであった為あんなに大きいんだそうです、山ってすごいですね。ってそんなことはどうでもいいんですよ、私の越えるべき山というのは一体どこにあるんですか？だからいったでしょう、山なんて元々無いんですよ。あなたが自己満足で高々と砂のお城を作り上げてそれを山だ山だと喚いて、結局登り切れないからと適当な所で悔しくなっているだけなんです。登り切ってしまう人が稀に居ますが、あれは彼彼女が山の進化系といえは分かりやすいでしょう。山は絶滅したといいましたが、それは大きな種類の山だけの話であって、山は日々進化し続けるわけです。人のなかにも山は平気な顔して混ざっていますし、飲食もすれば性交だって日常的にしているでしょうね。そんなことも知らないようでは、あなたは時代に置いてけぼりですね。まあ、時代とは単なるカテゴライズにすぎません。化石になるか、それとも山との対話を重ねるか、あなた次第です。一応

のアドバイスとしては、山は非常に気まぐれです。

パイル、パイル、パイルの集合体が街を襲う。リアルなのは嫌い。腹の探り合いとか、偶然その存在を見つけちゃった時とか。知らないところで仲良くされるのは虫がウズウズしてきます。はい、キンカン。医者に言われたことがいまいち納得できなくて立ち去った訳です。ウズウズするのは腹が減っているからだと思い、ハンバーガーショップへ寄りました。「いかがなさいますか」「ポテトとハンバーガーを1個づつ」「お飲み物は」「ねえ、去勢ってどう思いますか」ビンタされた。

電車である。あの「山」の悪夢以来人間不信に陥り、こんな六畳の男臭い密室に居るだけで若干気が触れそうになる。ただ免許も持たない私なので、車には乗れない、けど仕事には行かなければならない、そんな葛藤を繰り返した結果電車である（タクシーは高いし何より六畳どころの狭さではないだろう。電車の方がまだマシだ）。アットザ町屋、途中あるツタヤは町屋のくせにやたらと品揃えがいい。私の地元にあるレンタル屋なんか、4枚（内3枚がプリンス）しかCDが置いていない。あと全部がビデオ。しかも VETA である。もうどうしようもない。仕事場に着いた。ここはババアの溜まり場、少女時代の面影は忘却の彼方か、と言いたくなる程に、形状記憶に失敗したなれの果てがここにある。世界はここまで理不尽なことをしてくれるのか。私はただただ合掌し、奴らが実は山である可能性について考えた。が、愛すべきババア共は山よりも異星人と呼ぶ方が相応しすぎる。制服。ババアのシミで目が覚める。さて仕事だ。

手形があからさまに残ってるから、例えば今僕が殺されたらあの店員は容疑者になっちゃうんですかね。男にとつての天秤、どっちに重きを置くかで今日の運勢すら変わっちゃうであろう天秤を、スパッと取れと言うのですよ。そんな簡単なもんじゃありません。だから

ら、だから、天秤なしの乙女に尋ねただけなのにこの有様であるよ。悲しくなっちゃうな。男にだって悩みはあって、子どもみたく皆さんの胸を借りて（時折ちよつと触ってみたりして（すみません）泣きたくなったりするんです。皆さんは僕みたく弱くないと思うので、この貧弱な胸板をレンタルすることはないでしょうか。必要なときは言ってください。鍛えておきますので。閑話休題、男にとって両天秤を片天秤にしちゃうのは死活問題な訳です。常に小首を傾げていなきゃバランスが取れなくなってしまうかも知れないじゃないですか、僕はこわい。なかなか理解し難い問題だと思います、僕らにも生理のヤバいのは理解しようとして努力しても理解し兼ねます。そんな越えられない壁を越えようとして登った瞬間、警備兵は僕をパアン、パアン。